

障害福祉分野の介護テクノロジー導入支援事業（介護ロボット等の導入支援）における導入事例

社会福祉法人海望福祉会
ショートステイひびき

1. 製品名

- ・日本ケアリフトサービス(株) SOEL CX-CROSS 据置型リフト／XY レール 1 台

2. 介護ロボット等の機器導入前の課題

・短期入所のご利用者にも様々な障害のご利用者がいらっしゃいます。中にはベッド上での体動が激しいためベッドからの転落リスクが高く、床マットや超低床ベッドで対応しています。しかしそのような場合、車椅子間の移乗は職員 2 人を要し垂直移乗や水平移乗の対応となるため、職員がしゃがみこんだ姿勢からの移乗方法となるため、職員やご利用者双方の身体負担が大きく、また介助中の事故リスクも高い状態でした。

3. 介護ロボット等の機器導入の推進方法

- ・腰痛実態調査アンケートの実施と集計結果のフィードバック
- ・デモ機(移動式据置型リフト)試用

4. 介護ロボット等の機器導入後の成果

①業務効率化について

・職員 2 人による垂直移乗や水平移乗を行う場合、職員 2 人が移乗介助を行う居室に同時に揃うことは少なく、主介助者がインカムにて副介助者をコールするため、居室に職員 2 人が揃うには 1, 2 分程度時間を要していました。

導入後、リフトによる移乗介助となったことで、職員は 1 人のみで対応できるようになり、職員が 2 人揃うまでの待機時間の問題も軽減し、また職員間の作業工程のすり合わせも減らすことができました。

②職員の負担軽減について

・職員 2 人による垂直移乗が、3 名のご利用者に行なわれていましたが、導入後、リフト移乗に変更となりました。この 3 名のご利用者の移乗介助に対応している職員に対し、導入前後で、腰痛の有無に関するアンケートを実施したところ、導入前(n=13)では、腰痛ありが 7 名、腰痛なしが 6 名、導入後(n=12)では、腰痛ありが 1 名、腰痛なしが 11 名と腰痛を感じる職員の減少を認めました。

- ・人力による移乗介助では、職員個々の技量やご利用者との体格差の影響をうけやす

かったのですが、リフト移乗では職員間で統一した作業手順が共有でき、ベッドと車椅子間の移乗介助におけるアクシデント・インシデント件数も減少しました。

5. 今後の課題

・短期入所専用の居室に据置型リフト(XY レール)を導入しましたが、床マットや超低床ベッドの対象となるご利用者が複数名同時に施設をご利用される場合は、職員 2 人による人力介助を余儀なくされる場合がございます。このことから今後、他の短期入所専用の居室にもリフトを増設する必要があります。

6. 据置型リフト(XY レール)を導入した短期入所用居室

